

他力本願（気になる言葉2）

自力の反対語である他力を使った言葉に他力本願があります。他力本願と聞いて、みなさんはどのようなイメージをもたれるでしょうか。

人任せ、他人頼みなどあまりいい感じをもたれない方が多いのではないのでしょうか。私もそうでした。

けれども、五木寛之さんの著作「他力」を読んで考えが変わりました。そこには次のことが書いてありました。

エンジンのついていないヨットは、まったくの無風状態であれば走ることができない。少しでも風があればなんとかなるでしょうが、そよとも吹かなければお手上げです。ヨットの上でどんなにがんばっても無駄です。他力の風が吹かなければ私たちの日常も、本当は思うとおりにはいかないものです。

この言葉ができた当時の輸送手段のひとつに船がありました。帆船ですから動力はもちろん風です。出航までは荷造や船内への運搬など自分で出来ることはすべて終えておかねばなりません。しかし、積み込みが終わってもいい風が吹かなければ船は動きません。だから、自力でできることを終えたら後はまさに風頼みです。では、ただ風を待つだけでいいのでしょうか。

しかし、風が吹いてきたときに、ヨットの帆をおろして居眠りしていたのでは、走る機会を逃してしまいます。ですから、無風状態がどれほど続いていても、じっと我慢し、注意深く風の気配を待ち、空模様を眺めて、風を待つ努力が必要なわけです。

つまり、他力は人任せとか他者に頼るとかではなく、まず自分が出来ることを精一杯やりきり、その後の自分の力が及ばないことには「いつか風は吹く」という信念を持ち続け、機会を辛抱強く待つことを必要とするのです。

このように意味づけて、私は「他力本願」のイメージが変わったのです。みなさんはいかがでしょう。

現在、コロナ禍の大阪府には緊急事態宣言が発令されています。私たち大人も子どもも、まずは今できる感染対策をしっかりとやりきることです。

そして、次の手立て（ワクチン接種など）を打つ機会を我慢強く、緊張感をもちじっと待つことが必要です。

緊急事態「慣れ」が心配される現在だからこそ、他力によって「コロナ禍収束」という願いが一日も早く実現することを願います。

（学校だより 2月号より）